

令和3年度第2回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和3年10月25日（月）13：30～15：30
と ころ：平戸市未来創造館 ホール

開催日時	令和3年10月25日（月） 13:30～15:30
開催場所	平戸市未来創造館 ホール
出席委員 (50音順、敬称略)	井上翔一朗、岡田眞、白石くみ子、田上和利、辻秀敏、 長崎屋容子、林田裕之、福田章、松尾俊行、松田隆也、 松山芳弘、村上則夫（12名）
欠席委員 (50音順、敬称略)	田口増巳、北條達夫、山中兵恵（3名）
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、田中課長、藤山班長、作江主任主事
事業担当課長	地域協働課：岩永課長、文化交流課：今村課長、 教育総務課：田中課長、子ども未来課：山川班長、村川班長、 学校教育課：(欠席)
次第	
1 開会	(事務局)
2 副市長 あいさつ	松田副市長
3 会長 あいさつ	村上会長
4 議題 (1) 平戸市総合戦略に係る令和2年度事業の実施状況等について 委員	<p>【基本目標3 子育て支援】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>子育て支援について、幼児を育てている当事者の立場としても、手厚い支援をいただいていると思う。安心出産支援事業について、私自身移住者であり、平戸に産婦人科が無いことは知った上で引っ越してきたが、費用負担の面で大変助かった。良い取組みなのに、事前を知る機会が無く、もっと情報発信してもいいのかなと思う。あいちゃん広場とトコトコについても通年利用しているが、当初は保育園独自の集</p>

	<p>客に向けた取り組みという認識であった。これが、市の予算を使った事業だということは利用者もあまり知らないのでは？引き続き取り組んでほしい。子育て世代包括支援事業で自宅に訪問いただくことでも、母親や子供が保健師と顔見知りになり、市役所を訪れた際に声をかけてもらえるなど地域全体で見守りを行っており、都会ではとても考えられない良いところだと思う。</p> <p>イングリッシュ・タウン事業について、学習塾を運営している立場からの意見として。今年度生徒からの要望により、今年8月自身の塾が初めて数学検定の準会場になった（個人受験だと最寄りには長崎市のため新型コロナウイルスも懸念）が、受験者が小中高16人程度であり、事業としてはとても採算が取れない。できれば公的機関において、子どもたちの資格取得支援や学びの機会創出など検討してほしい。英検については市が費用負担してくれており、意欲向上につながっている。ただし小学生については、数学検定と同様個人受験だと佐世保に行かねばならないため、今度英検の準会場となる。英検のみならず他の検定についてもニーズはあると思うので、市の学力向上のため検討してほしい。</p>
委員	<p>子どもが産まれる直前は母親も不安で、いつでも救急車が呼べるとは言われつつも遠慮してしまい、自分で通院しては帰ってくるという事例もあるので、救急車を使って良いということを広く周知してほしい。産婦人科を誘致していただくことが1番の理想である。また、生後4か月ごろから一時保育を利用しようと、市の窓口で紹介された保育園を回ったが、新型コロナウイルスの影響で受け入れていないと断られ、その状況について市は把握していなかった。最終的に、市から紹介された保育所一覧には載っていない乳児専門の受入施設に預けることとなり、1年経つが様々な問題に直面している。切れ目ない支援というのは、個人的にはあまり感じられていない。</p>
担当課	<p>1日入園の件について当時、確かに新型コロナウイルスの影響で受け入れていないという施設があったことが、広く周知できていなかった</p>

委員	<p>ため、その後情報共有など改善を図った。</p> <p>私が住んでいる地区では乳児の数は少なく、また、多くが島外から嫁いで来られている。現在、乳児が6人・妊婦が4人ほどいるが、乳児健診や母子相談の終了後、皆さん集まってお話をして帰る状況が見られる。人口減少対策として、まずは住民がここに住んでいて良かったなど思えることが大事であり、情報交換の場が作れるように努力もしている。昨日訪問した方も、子育て支援事業のことをよくわかっていなかったため、持参していた「おひさま」の冊子をあげた。平戸市でどういう事業が実施されているのか、周知があまりなされていないのかなと感じた。切れ目ない支援について、以前「まどか」というノートを作成していたと思うが、その活用状況は？</p>
担当課	<p>「まどか」について、0歳～18歳まで記録が残せる冊子となっており、健診や各種事業に関わった際に記録いただくものである。ただ、紛失や健診等に持参しないということがよくあっており、取組みについて周知や広報を積極的に行っていきたい。</p>
委員	<p>地域に母子推進委員がおり、その方に相談すれば保健師や担当課につながってくれるので、そういった仕組みも利用してほしい。</p>
委員	<p>現在、小学・中学・高校・大学へと1人ずつ通っているが、上の子の時よりも段々支援が手厚くなってきておりありがたいと感じる。あいちゃん広場は私も利用してみたいと思いつつ、愛の園保育園の児童しか利用できないという認識だったので、もっと周知をしてくれればお母さんたちも助かるのではないかな。資料41ページの事業の実施状況「田平地区のトコトコ参加者」数が群を抜いて多いのは、集客の工夫が何か行われているのか？</p> <p>資料46ページ英検Jr.について、英語も習っていないのに我が子が受けると言ってきたため、落ちて構わないからと受験させた。横浜の中学校の先生の話だが、現代は「これをしなさい」と求められるこ</p>

	<p>とに出来るだけの生徒が増え、自ら意欲を持って学ぶ生徒が少ないために学力低下や自立・自尊心・決断力に乏しい子供たちが増えているとのこと。子供が自ら学びたいと思えるきっかけを作ることが大事なので、英検 J r . をはじめ各種検定等への支援は大切だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>高校生に対しても、ケース会議など他市に比べ、圧倒的に平戸市はよく取り組んでくれており、他市では意見を聞き入れてもらえないことも多々あったが、平戸市は親身になって対応してくれるので今後も引き続きお願いしたい。</p> <p>I C T 教育環境について市内 3 校の高等学校も整備は済んだものの、北松農業高等学校の場合、半分の生徒は農場で学習するため実際には使えておらず、県に相談しても対応してくれない。市の方でも、将来の後継者づくりのために農場での I C T 環境整備について考えてもらえないか？</p>
<p>担当課</p>	<p>高等学校は市ではなく県の教育委員会管轄となるため、直接的には難しいが、農業振興など別の観点から支援ができないか、市の内部で検討が必要と思われる。この場では回答できない。</p> <p>英検等のご意見について、担当の学校教育課が公務の都合上出席していないので、私の知る範囲で回答する。英検検定料助成金制度があり、全額助成をしている。令和 2 年度から実施している英検 J r . にも助成しており、少ない費用負担で受験可能である。英検 J r . は育成型ゲーム感覚のリスニングテストであり、まず英語に興味を持ってもらうことが狙いだが、今後も引き続き支援を行うので、多くの方に受験してほしい。平戸市教育振興基本計画において、英語に特化して取り組むこととなっているため、現在は英検のみの助成であり、数学検定についても要望があったということを持ち帰り、学校教育課へ伝え検討する。</p>
	<p>事務局</p> <p>農場での W i - F i 環境整備について、企画財政課が取り組んでいる高校魅力化なのか、農業振興であるのかなど市としてどういった方向性</p>

<p>委員</p>	<p>が考えられるか検討する機会を持ちたいと思う。</p> <p>資料 44 ページの I C T 教育環境整備事業について、I C T 支援員は各学校に配置されているのか、複数の学校で 1 人という配置なのか？令和 2 年度から令和 3 年度にかけて、予算額が 2 倍以上になっているがなぜか？事業実施による成果「授業に I C T を活用して指導できる教職員の割合」について、通常は年々増加していくのではないかと感じるがどうか？遠隔教育システム導入事業について整備が完了したことで、今後はその活用を考えていかないといけないと思うが、例えばイングリッシュ・タウン事業など他の事業での活用法はどのようなものがあるか？</p>
<p>担当課</p>	<p>I C T 支援員の配置について、市が民間事業者に委託し、何かあった際に対応してもらい流れとなっており、何校に何名配置というようなものではない。「授業に I C T を活用して指導できる教職員の割合」については、G I G A スクール構想で児童・生徒 1 人 1 台タブレットが整備されたことによって、教職員間に不安感が表れているようである。I C T 教育環境整備事業の令和 2 年度決算額の差については、G I G A スクール構想に係る事業を別計上としたため、一時的に金額が減ったように見える。遠隔教育システム導入事業について活用はこれからとなっていくが、現状としては全校集会における校長先生のお話、他県の学校との授業交流、社会科見学で博物館等の説明を遠隔で視聴するなど活用されている。姉妹都市など海外と遠隔で交流するなど可能性を広げていければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、段々と支援が手厚くなってきていると意見があったが、父親も見ると、理解しやすいような冊子やツールがあればいいなと思う。子育て全体的な話だが、企業側の支援というのが含まれていない。現代は共働きの家庭が多く、働きやすい職場・長く勤められる職場づくりが求められるので、企業が取り組むべきことではあるが、子供の病気による休暇などを職場がきちんと理解した上で、休みにくい</p>

<p>担当課</p>	<p>雰囲気を作らないなど企業の支援策は必要である。</p> <p>父親の参画について、初めて子供が生まれる場合はパパママ教室を開催しており、沐浴のさせ方や母親が出産を迎えるまでどういう流れとなるかなど、学んでもらう場を設けている。各種お知らせについては、「おひさま」という冊子を妊娠届に来庁された際母親に渡しているため、父親にも興味を持って読んでいただければと思う。特に、市内の公園の情報や様々なサービスなど細かい情報も掲載しているので、ご活用いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 42 ページの事業の実施状況で、乳児を持つ対象世帯が 176 世帯ある中、パパママ教室への参加者がのべ 31 人というのは、一緒に参加してくれる父親が少ないのだなと感じた。夫に仕事を休んでまで同行してもらうことに抵抗を感じている方もいると思うので、父親にも、なんとか参加してもらえそうなプログラムがあるといいなと思った。</p> <p>I C Tについて教育環境が整い、学校と子供たちの理解はもちろんのことであるが、ここに保護者の関わりが無いと感じる。1人1台タブレットを持つことで、いじめやなりすましに巻き込まれるのではないかと、セキュリティ面など保護者同士話す中でも不安だという声を聞く。何かあった時の相談先はどこかなどわからないことが多いため、保護者説明会を開くなどしても良かったのではないかと子供たちは、持ち方ひとつでも最初は言われたように扱うが、慣れてきた時にいつか壊すのではないかと、壊した時に保険がどうなるかなど子供では線引きできない部分がある。メディア依存に陥らないためにも、初めて持たせる時に、どういうルールを作るのが肝心。</p>
<p>会長</p>	<p>平戸市総合戦略において、市が子育てについてどういう方向に考えていくのかであるが、英語教育やI C Tなど具体的な活動はローカルで、発想はグローバルで進めてほしい。国際的な発想を持って、平戸市のために柱を作って活動できる「人づくり」を目指すとする、今の方向性で良いのではないかと感じる。平戸市は中にいる人には感じに</p>

<p>(1)平戸市総合戦略に係る令和2年度事業の実施状況等について</p>	<p>くいかもしれないが、外から見ると子育てに手厚く、合計特殊出生率も高い。子育てを支援する施策について、発展させつつ引き続き取り組んでほしい。</p> <p>【基本目標4 定住・移住の促進】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
<p>委員</p>	<p>移住・定住について、ネット環境が整備されていれば、専門性を有する方々の移住につながると思っている。医療等の条件もあると思うが、補助金がどれくらいあるのかは気になると思う。補助制度は、近隣自治体に比べて充実しているのか？</p>
<p>担当課</p>	<p>当市としては、補助金額について他市を参考にしたというよりも、他市より率先して制度作りを行った経過があるため、「～市と比べてどうだった」という話は聞いていない。金額や要件を他市と比べたことは無いが、悪い評判を受けたことは現在まで無い。</p>
<p>委員</p>	<p>比較する必要はあると思うので、ぜひ今後やっていただきたい。 資料56ページの三浦按針没後400年事業について、まずこの事業は何年度まで実施するのか？</p>
<p>担当課</p>	<p>令和3年度まで行うようにしている。</p>
<p>委員</p>	<p>それであれば、ANJINこども英会話事業の対象となっている「幼児」について、イングリッシュ・タウン事業では対象になっていないことから、次年度以降は幼児の英語教育についても継続して考えていかねばならないと思う。提案の1つとして、市内保育園等の職員に対し英語教育を取り入れられないか聞き取りを行うなど、複数の課にまたがることだと思うが検討してほしい。</p>

担当課	教育委員会等とも調整して検討していきたい。
委員	三つ子の魂百までというように、それくらいの年代から始めれば、英検を受ける年代が引き下がってくるなど相乗効果が生まれるのではないかと思う。
委員	空き家の件について、高齢化が進み空き家が増えているものの、例えば仏壇が置いたままになっているなど所有者との問題で、借家等に活用しようにも使いにくい。調整に時間がかかる間、家は壊れていく一方である。解決案は何かないか？
担当課	<p>先ほどご意見をいただいた移住・定住助成制度の比較については、随時見直し等検討しているので取組みの参考とさせていただきたい。</p> <p>空き家が存在するものの利活用がなされていない件について、家財の処分やそもそも思い入れの問題、所有者親族と調整が上手くいかないなど問題は様々であり、対策を考えているところ。空き家を活用した移住・定住につなげるために空き家バンク制度を設けているものの、登録に至るまでにてこずっている。地域に根ざしているまちづくり協議会の協力を得るなど、所有者等との調整を画策している。また、都市計画課において今年、市内全域の空き家調査を行うため、その際所有者へ、空き家の利活用を促進するようなアンケートを実施することで、今後の活用につなげたい。</p>
会長	資料 51 ページ事業実施による成果の中で、移住相談件数が年々増加しているが、こういった理由で移住したいと言っているのか教えてほしい。
担当課	令和元年度はU・Iターン者の増加に比例しており、令和2年度はコロナ禍の影響によりU・Iターン者が減少したものの、テレビ番組「田舎で1000万プレーヤー」の全国放送により就農相談を含めた移住

<p>委員</p>	<p>相談件数の増加が大きく反映している。相談内容は小さなことから込み入ったことまで様々であり、また延べ件数であることはご理解いただきたい。</p> <p>まちづくり協議会の取材をする中で、支援を受けて定着された人の話を聞くが、地域に魅力を感じて移住してきていることは間違いのないようである。飛び込みで入ってきた方に対し、受け入れ態勢が整っている地域とそうでない地域があるようで、その地域の中心にいる方たちの意識の差が表れていると思う。観光客の受け入れについてもコロナ禍以降、大勢を迎えることに眉をひそめる方たちも見受けられ、それを体感した人たちの話も聞いた。意識を前向きにしてもらうため、まちづくり協議会についても同じ人たちが動くのではなく、上手く住民を巻き込むサポートを行政が行ってほしい。</p> <p>資料 57 ページ事業の改善について、市への補助申請件数が減っていることは、まちづくり協議会独自の活動支援に移行しているのではないかと類推してあるが、お金のことであるので全体の実態を精査した上で、減らせるものは減らしていくと方針を決めていった方がいいのではないか？</p>
<p>委員</p>	<p>シティプロモーションについて、どこにどういった形で発信しているのか？また、中心商店街の空き家対策について、中心商店街も老朽化した物件が増えているが今後の対策について聞きたい。</p>
<p>担当課</p>	<p>シティプロモーションについては、広報やSNSを通じて内外へ効果的に発信するためどういった手法を取ればいいのか、施設であればどうすれば入館者を増やすような発信ができるのかなど、外部専門家のアドバイスを受けるという事業である。アドバイスを受ける側は、市の組織内とまちづくり運営協議会の大きく2つであった。「シティプロモーション」というのは広く大きな取組みであり、この事業以外に、イベントや城泊のPRなど市外に向けた情報発信等についても、本来はシティプロモーションと呼べるものである。</p>

<p>担当課</p>	<p>中心商店街の中での空き家対策について、商店街に特化した形では考えていないが、空き家について利活用を促進する取組みとして、地元の不動産業者とも情報共有を図りながら、空き家バンクへつなぐことが重要と考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>移住に関するアイデアの1つとして、近隣自治体がやっているようにキャンピングカーを市で用意し、農業・漁業体験などまつうら党交流公社と連携して、平戸の自然に触れてもらうことで移住者が増えるのではないかと。空いているときは市民に貸し出すというのも良いのではないかと。</p>
<p>副会長</p>	<p>移住定住環境整備事業、定住促進対策事業については平戸市の目玉として力を入れていかねばならないと思っている。担当課なりに空き家対策を実施してもなかなか実績が伴わないが、今後も継続していく。若者の定住促進については、この1年特に力を入れるよう議会からも指摘を受けており、本日もその対策会議を行った。他市にあって本市に無い補助制度などは、新設に向けて考えていこうと制度設計についても協議している。まちづくり運営協議会については全14地区発足したが、早いところでは8年目となり過渡期を迎えている。人材の発掘や、今後の取組みをどうしていくかなど課題は地域に応じて差があるものの、年間約1億7千万円規模の事業であり、地域課題に寄り添った事業となるよう、各協議会と真剣に協議していく。事業費について広く、皆さんに有効活用していただくため、担当課とも連携を図っていくべきだろうと思う。</p> <p>課題は山積であるが、いずれも予算が伴うことであり「活きる」形とするため、行政も下支えしていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>移住定住について、数値的成果・KPIは厳しい結果だが、全国的に同様だと思う。平戸市においても施策に引き続き取り組み、目標値をクリアできるよう進めてほしい。</p>

5 閉会

財務部長あいさつ
(会議終了)